

令和7年度B日程
学力検査問題

①

国語

注意

- 1 開始の合図があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- 2 解答用紙は問題用紙の中に挟んであります。
- 3 問題用紙は表紙を除いて6ページで、問題は一から三まであります。
- 4 開始の合図があったら、まず、問題用紙および解答用紙の所定の欄に
受検番号を書きなさい。
- 5 答えはすべて**解答用紙の指定された欄**に書きなさい。

受 検 番 号

【ポスターの案】

出かけよう、未知の世界へ。

読書週間 10/27(日)~11/9(土)

本の中には、あなたの知らないことがたくさん詰まっています。日頃触れることのない分野の本を読んで、あなたの世界を広げませんか。

読書週間には、図書室で様々なイベントが開催します。ぜひ、お越しください。

若葉中学校 図書委員会

□ 次の(一)～(四)の問いに答えなさい。

(一) 次の1・2の文の——線部の漢字の読みがなを、それぞれ書きなさい。

1 新入生をテニス部に勧誘する。 2 職に就く。

(二) 次の1・2の文の——線部のカタカナを、それぞれ適切な漢字に直して書きなさい。

1 展覧会にシヨウタイする。 2 籠の中で小鳥をカウ。

(三) 次の行書で書かれた漢字を、楷書で書いたときの総画数を数字で書きなさい。

起

(四) そらさんが所属する図書委員会では、全校生徒に向けて、読書を推進するポスターを作成することになった。次は、そらさんが作成した【ポスターの案】である。また、後の【資料】は、ポスター作成の際にそらさんが参考にした資料であり、【会話】は、そらさんが【ポスターの案】について、他の図書委員と話をした内容の一部である。これらを読んで、後の1～5の問いに答えなさい。

二 次の文章を読み、後の(一)～(四)の問いに答えなさい。

著作権保護のため掲載していません。

(一) 文章中の——線部1に「ひとそれぞれというワナに陥る」とあるが、これはどういうことか。その内容として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 多様な考え方が尊重されると、ひとの数だけ考えがあることになり、どれが本当のことかわからなくなるので、ほかのひとの意見に関心がなくなり、結局は、自分の考えこそが絶対だという考え方から脱け出せなくなること。

イ ひとりひとりの考え方はすべてちがっているので、自分とちがう意見には関心を向けずに自分の意見は絶対だと譲らない一方で、自分と同じ意見を持っている人は必ずいると考え、その意見に出会うまで探し続けること。

ウ ひとそれぞれの考え方を尊重して、ほかのひとの意見に耳を傾けてみるが、意見は多様にある一方で、自分の考えと合う意見は少ないため、本当の答えを求める気持ちが薄れ、自分の考えを見失いがちになること。

エ 考えが多様であると、ひとそれぞれの意見に関心を持つ必要があるが、その意見に共通する考えであればあるほど共有しやすいので、結局は多くの人に共通する考えが絶対だという考え方から脱け出せなくなること。

(二) 文章中の□に当てはまる言葉として最も適切なものを、文章中から**四字**でそのまま抜き出して書きなさい。

(三) 文章中の——線部**2**の「同調圧力から生まれる意見」とは、どのような意見だと筆者は述べているか。その内容を**三十字以上四十文字以内**で書きなさい。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

(四) 文章中の——線部**3**に「考え方のちがう相手とも、幸せについて話をすることができます」とあるが、このことについて筆者はどのように述べているか。また、そのような筆者の考えについて、あなたはどうか考えるか。次の**条件1**～**3**にしたがって書きなさい。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

条件1 全体を**百字以上百二十字以内**にまとめること。

条件2 最初に、筆者の考えを説明し、次に、それに対する自分の考えを書くこと。

条件3 自分の考えについては、なぜそう考えるかという理由を明らかにして書くこと。

〔三〕 次の文章を読み、後の(一)～(三)の問いに答えなさい。

石州銀山にての事ぞとよ。常に寄合ひぬる者一人入道し、法名を芝恩しおんとつく。友達に鈍なる男ありて、つひに芝恩といふ名をわすれ、「お禅門お禅門」と呼ぶ。禅門腹立し、「しをんといふ草あり。見られたことはなきか」。「いや、まだ見ぬ」と。「さらば見せん」とて連れだち、ある人の前栽せんざいへ行き、しやがとしをんと花さきてありしを、「これはしをん、これはしやがといふ」と教へ、「このしをんの花の名をよく覚ゆれば、わが名と同じことぞ。忘れたまふな」と言ひいふくめて帰りぬ。

くだんの男、領掌りやうじやうしけるが、また二、三日ありて後に逢あひし時、しをんをばうち忘れ、「さてもしやが、お久しい」と申したり。

〔『醒睡笑』による〕

(注) 石州銀山：石見国いわみのくに(鳥根県西部)の銀山。 寄合ひぬる者：親しくしている者。

入道し：仏道に入つて修行し。 法名：僧になつたときに授けられる名。

禅門：仏門に入った男性。 しをん：キク科の多年草。 前栽：庭先に植えた草木。

しやが：アヤメ科の多年草。 くだんの：前述の。 領掌しけるが：承知したが。

(一) 文章中の~~~~線部の「言ひふくめて」を現代仮名遣いに直して、~~~~線部全部をひらがなで書きなさい。

(二) 文章中の——線部の「さらば見せん」は、誰の言葉か。次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 芝恩 イ 友達 ウ ある人 エ くだんの男

(三) この文章で述べられている内容の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 入道した男の教えによつて、友達は今まで知らなかつた花の名を知り気に入つたことから、その花の名に由来した法名を得ることになった。

イ 入道した男の法名を友達がわざと間違ひ続け、しまひには花の名で呼んだために、二人はしばらく関係を断つことになった。

ウ 入道した男が、同じ名をもつ花を友達に示して、自分の法名を覚えてもらおうとしたが、友達はその花の名を忘れ、別の花の名で男を呼んでしまった。

エ 入道した男が、友達に珍しい名の花を持つてくるように頼んだが、友達は頼まれた花の名を忘れ、別の種類の花を持つてきてしまった。